



令和6年度 ふくずみ幼稚園学校評価について

本園では、園の教育や運営等の改善を図ることを目的として自己評価を行っています。この評価活動は、指導の在り方、取り組み方、園としての運営の在り方などを評価することで本園の教育活動を振り返り、次年度の方向性や方策を検討するものです。

今年度の評価結果をまとめましたので保護者の皆様にお知らせいたします。

「教育計画」「指導の重点目標」「保育の在り方」「研修・研鑽・働き甲斐」「保護者との連携」「安全教育」という大きなくりの中でそれぞれについて4個～9個の評価項目を設定して評価しました。

◇重点目標や教育計画では・・・

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 本園では、①強くたくましい心と体を育てる | ②創造性を高め、情操を豊かにする |
| ③社会性を育て他と協調し合える心を養う | ④自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする |
| ⑤基本的生活習慣を徹底して身につけさせる | の5つのことを重点にして保育活動を行っています。 |

その中で、成果として以下の点が挙げられます。

- 「縄跳び」の取組については、年長に向けて積み重ねていけるように（R5年度の確認）⇒チャレンジカードの取組が盛んになり年間を通して縄跳びに挑戦する子が増えています。中には1回旋1跳躍の跳び方でつま先でのジャンプができたり、多くの回数を跳べるようになったり、難しい跳び方にも挑戦したり…と取組の成果が見えています。また、グラウンドの遊具を使ったチャレンジにも積極的に取り組む姿がたくさん見られました。この取組を今後も続けていきます。（①に関連して）
- 各学年の製作活動で作った作品を廊下に展示したことによって、互いに作品を見合ったり、関心を高めたり、互いに刺激し合える環境づくりや意欲化の手立てになっていました。次年度も継続して取り組みます。（②に関連して）
- 異年齢で活動する機会があることで自由保育の中でも子ども同士の関わりがみられていました。次年度も縦割り活動を充実させていきます。「クッキング」については、粉ふき芋に挑戦しました。今後も農園で収穫した野菜を使って実施していこうと考えています。また、今年度2歳児クラスを開設し、当初は2歳児だけで活動していましたが、最近では自由遊びの時間には全ての園児がホールなどで遊ぶ姿があり、2歳児を含めた関わりが見られています。そのため、時期を見て2歳児も他の学年と関わる機会を設けていこうと考えています。（③に関連して）
- 子どもたちの自己評価でも挨拶をしていると答える子が増え、登園時には自分から「おはようございます」と言って玄関に入ってくる子が増えています。次年度も挨拶に重点を置き、自分から挨拶をする習慣づくりの工夫と活動づくりを継続します。（⑤に関連して）

【今後の課題として】

- ふくずみ幼稚園ならではの教育活動の充実を図る。
「自然とのふれあい」を更に充実させていこうと考えています。自然物を使った遊びや自然の中での遊びなどを計画していきます。また、自園で収穫した作物を使って調理する活動を食育活動計画に位置付けていきたいと考えています。
- 日常の活動を子どもたち自身が評価することを通して、自分の目標や方法を明確にして取り組む姿を大切にします。この活動の積み重ねによって自分の取組を振り返る力と自信や意欲を育てていこうと考えています。

◇安全教育では・・・

- いつ、どんな場面でも安全に行動できる力を身に付けていくための訓練を行いました。ホールにいる時、突然サイレンがなった時などを設定して年間5回の訓練を実施しました。多くの子が落ち着いて安全に避難することができました。次年度も様々な条件を設定して実際に使える力を身に付けられる訓練を実施します。
- 誤嚥防止や緊急時の対応など職員のスキルを確かなものにするための研修を行いました。2歳児クラスでは、給食のおかずを見て、ハサミを使って小さくして与えるなどの取組を行っています。保護者の皆様にもお弁当のおかずの大きさ（ぶどう、ミニトマト、ゼリー、りんごなど）の配慮（のどに詰まらないように小さくするなど）をお願いします。
- 園内のおもちゃを点検し、誤嚥防止の基準より小さいサイズのおもちゃは撤去しました。また、年齢に応じたおもちゃのサイズを考えて使用するように確認しています。

◇保育の在り方や研修では・・・

- 現在使用しているおもちゃが古くなったり少なくなったりしているので、補充していこうと考えています。
- 研修では、AEDの使い方や救命法のスキルアップと緊急時の役割分担などの確認と意識化のため、豊平消防署のご協力とご指導をいただき研修会を実施しました。今後も研修計画に位置付けて取り組みたいと考えています。

◇地域・保護者との連携では・・・

- お子さんのことで心配なこと（発達、言語、体力面、人間関係など）がある場合には、園での様子を見ていただくことも含めて対応していきます。担任、又は教頭の鬼塚までいつでもご相談ください。
- 子どもたちの挨拶がとてもすてきになっています。ご家庭のご協力に感謝いたします。



令和6年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和7年3月4日
ふくずみ幼稚園

1 本年度の重点目標

- 「自然との触れ合いを通して、豊かな人間性を育む教育活動の推進」
- 「子ども一人ひとりの良さと可能性を引き出す教育活動の推進」
- 「教職員が働き甲斐を感じ、子どもが明日も通いたいと思える園の創造」

2

1. 強くたくましい心と体を育てる
2. 創造性を高め情操を豊かにする
3. 社会性を育て他と協調し合える心を養う
4. 自立心を育て他人に頼らず自分のことは自分でする子の育成

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
重点目標・評価	今年度の重点目標とした園の課題は幼児の実態に合わせ十分に組み組めるものであったか。	A	きめ細かな関わりを大切にする風土を基に個に応じた関わりができている。縄跳び活動や園庭遊び（チャレンジカード）など体力向上の取組も充実してきた。	A	A
	教育目標の実現に向けた園評価のあり方は現在行われている方法でよいか。	A	評価項目の設定から園務分掌組織を有効に活用して教育活動の実施と評価の一体化を図っている。自分事としての評価活動となっている。	A	A
学校関係者評価委員による意見		園務分掌組織を有効に機能させていく評価活動の取組はよい。更に主体的な活動が生まれるように PCDA をしっかりと機能させていくことが大切である。			
教育指導	幼稚園教育要領にのっとり幼児の発達段階に即した適切な指導がなされたか	B	概ね重点目標に沿った活動が進められたが、本園の特色を生かした教育活動については、今後更に工夫が必要である。	A	B
	改善の取組や指導力を向上させるために研修を効果的に進めることができたか	B	社会情勢に合わせた園内の研修の充実を図っていく。誤嚥防止や緊急時の対応など。	A	A
学校関係者評価委員による意見		「自然とのふれあい」という理念を今一度吟味し、日常の保育活動に生かす特色ある教育活動を推進してほしい。			
保育重点	育てたい児童像、指導重点などの提示が適切であったか	A	前年度の評価を生かして毎年年度の重点を決めており、職員総意で日常的に意識して教育活動を進めてきた。	A	A
	提示された項目について適切な指導がなされたか	A	学年研修の充実を図る。カリキュラムの年度ごとの更新を図る。	A	A
学校関係者評価委員による意見		2歳児の受け入れ1年目で蓄積した保育活動のデータを生かし、適切な保育の在り方を吟味してほしい。今年度取り組みられている方法を継続してよりよいものを目指してほしい。			
安全管理	緊急事態発生時の対応は十分であるか	B	緊急時の対応の仕方を毎年確認する場として園内研修に位置付けていく。	A	B
学校関係者評価委員による意見		「実際に即した対応」をするために、場面の想定や対応の仕方等の確認を大切にして研修活動を進めてほしい。日常に潜む危険を想定し、組織としての危機対応を明確にしてほしい。			
情報提供	園の情報が適切に公開されているか	A	HP のブログで園の情報を保護者に発信した。今後ともタイムリーな情報発信に努めたい。送迎時や登降園時に個別にけがや心理的な様子を丁寧に伝えていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見		今後とも保護者のニーズに合わせ丁寧に対応することを大切にしてほしい。			
連携	園と地域社会が双方向の連携を図ることができているか	B	小学校との交流が行われ、相互に子どもの様子を見合う機会を設けている。同窓会を開催し、卒園した子どもたち保護者とも関係ができていることを財産にしたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見		地域の中の幼稚園というスタンスをこれからも大切にしてほしい。			